

文部科学大臣 萩生田光一 様
文化庁長官 宮田亮平 様

あいちトリエンナーレへの助成金不交付を撤回してください。

あいちトリエンナーレ側が「表現の不自由展」を中止したのは、テロや脅迫から人命を守るためです。それでも多くの海外作家がテロに屈した「検閲」として、展示を取りやめる、または展示内容を変更しました。

では、今回の文化庁の助成金不交付は何のためですか？

令和元年 9 月 27 日萩生田光一文部科学大臣記者会見にて「実施のプロセスの段階で申請書類と実体に乖離があったということで補助金の交付を見送ったという判断」と萩生田文部科学大臣はおっしゃっていますが「私はどういうものが展示をされているのかは個別のものは承知してません」とも言っています。ではどうやって実体と乖離があったと認識できるのですか？

この不交付によって「テロや脅迫、電凸を行えば、意にそぐわないものは阻止できる」と多くの人が思うことでしょう。それについて責任はどう取りますか？「これは検閲ではない」ということですが、今回によって引き起こされる人々の考えへの影響についての責任はどう取るつもりですか？文化というものは、人の心を育て、この世界を作っていくためのものです。数字やデータではなく、人々の内側にあるエモーショナルなものです。今回の不交付によって、多くの人が表現の自由を感じられなくなり、今後、芸術の分野だけでなく各分野へ大きな黒い影を落とします。それは明白であり甚大です。萩生田文部科学大臣がいうように「それはその人たちの認識だと思えます」で済ませるようでは、国の文化を司る重要なポストにいるべきではないと思います。文化についての任務を引き受けるということは、何が人の心に生まれ育つか、目には見えないが非常に難しく未来にとって責任が重い責務を担うことなのです。

今回は特殊なケースと思っているかもしれませんが、サリン事件があり、京都アニメーションの放火があり、多くの方の命が失われました。そして、このあいちトリエンナーレへの脅迫とテロ予告がありました。この日本でなにが特殊ですか？そしてこれらを誰が予知できましたか？文化庁こそ不測の事態についてどうすべきかわかっていないのではないですか？今回すべきことは、交付金を撤回することではありません。

今後、こういったことが起こった時は文化庁は何をするのでしょうか？今回と同様、責任を展示運営側に押し付けて、助成金を不交付とするのでしょうか？文化を応援する立場とおっしゃっていますが、口先だけで実行はできていないということだと思います。萩生田文部科学大臣は、この不測自体に相談がなかったといいますが、文化庁こそ手を貸さなかったのは一体なぜですか？文化庁は何をやっているのですか？少なくとも私にはわかりません。

あいちトリエンナーレの不交付を撤回してください。

これはお願いではないです。国民の 1 人、私の意向です。

(滝戸ドリタ)
(2019 年 10 月 06 日)